



主な内容

- ②新型コロナウイルスワクチン接種(今月末まで)
- ②新小1・新高1へマル子・マル青医療証を送付
- ④もっと便利に! 「日曜窓口」を始めます!

令和6年

所信表明

(要旨)

2月29日に開会した清瀬市議会第1回定例会で、澁谷桂司市長が、令和6年の基本的な市政の運営方針や主要事業についての考え方を表明しましたので、その要旨をお知らせします。なお、所信表明の全文は市ホームページに掲載しています。



全文はこちら



はじめに

1月1日に発生した能登半島地震では、被災された方々を支援するため、清瀬市独自に石川県能登町へ職員派遣を行いました。1月17日から2月14日まで約1か月間、4陣に分け計8人の職員を派遣し、水やアルファ米、ブルーシートなどの支援物資を届けるとともに、能登町役場において罹災証明書の発行業務などに従事しました。清瀬市でもいつ起きるかわからない災害に対して、派遣職員の今回の経験を、すべての職員が自分事として共有し、引き続き災害対策に取り組んでいきます。

災害対応を強化

能登半島地震の被害状況が明らかになるなかで、家屋の耐震化の重要性をあらためて強く感じました。これまで、木造家屋の耐震診断や耐震改修に対する助成を行っていますが、より強力に進めるため、木造家屋耐震改修助成を、家具転倒防止措置を行うことを要件に上限額を30万円から100万円に拡充します。また、耐震化されていない木造の賃貸物件から、耐震化された賃貸物件への引っ越し費用の助成を新たにはじめます。

さらに、災害が発生するたびに問題となる避難所での女性や配慮

清瀬の未来を創造し、選ばれるまちに

が必要な方への支援について、「女性や要配慮者等の防災対策検討委員会」を開催し、避難所運営体制の強化を図ります。

子育てが楽しいと思えるまちに

子育て世帯への経済的な支援では、義務教育就学児及び高校生等の医療費助成における所得制限を撤廃します。



また、新たに「きよせ・チルドレンファーストチケット事業」として、きよせニンニンポイントアプリを活用し、子育て支援事業や市内の店舗で使えるデジタル商品券1万円分を支給します。

未就学児のいる世帯への支援では、市立保育園で登降園管理システムの運用を開始します。このシステムにより、登園、降園の管理、保護者との連絡などが、タブレットやスマートフォンを使って行うことができ、保護者の皆さまの負担軽減を図るとともに、保育士の事務負担を軽減し、保育の質の向上を図ります。

就学児への支援では、学童クラブで、芝山小学童クラブは、新たに芝山小の校庭に施設を整備し令和7年4月に移転します。

また、十小地区では、十小のプールを解体し、その跡地に新たな施設を建設して、令和8年度から中清戸学童クラブと十小学童クラブを統合して運営します。

学校教育では、不登校や不登校傾向の子どもたち一人ひとりの状況に応じた支援を行うため、複数の小学校及び中学校に校内別室指導支援員を配置します。

誰もが健康でいきいきと暮らせるまちに

健康の維持、増進には、ウォーキングが大変効果的



なことから、ウォーキングマップ・デジタルウォーキングラリー事業を引き続き行います。スマートフォンのGPS機能と連動したウォーキングコースを歩くことでポイントを獲得し、抽選で「きよせニンニンポイント」をプレゼントするもので、楽しみながら健康づくりに取り組む市民の皆さまを応援

します。

また、がん検診の受診率の向上や、内視鏡による胃がん検診など科学的根拠に基づく質の高い検診の実施を実現するため、「清瀬市がん検診受診率向上委員会」を設置し、目標や方策について検討を進めます。

高齢者福祉では、高齢者の皆さまが地域でいきいきと暮らしていただけるよう、「TOKYO長寿ふれあい食堂推進事業補助金」を創設します。

清瀬の未来の創造

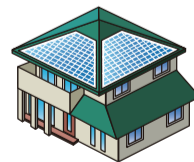
令和6年度よりいよいよ南部地域児童館等複合施設及び中央公園の整備工事が始まります。

また、今回、中央図書館との複合化にあたり、図書館の現状などから、今後の図書館サービスのあり方を市民の皆さまにご検討いただきました。その結果、今後のあるべきサービス展開の実現に向けた新しい図書館体制として、宅配サービスの導入や、地域図書館の再構築などを行います。

清瀬駅周辺の整備については、令和5年度に、にぎわいを創出する未来構想を戦略的に検討するための基礎調査を実施し、駅周辺の自治会や商店会の皆さまなど市民の皆さまによるワークショップを行いました。令和6年度は、この基礎調査をもとに、課題の整理やビジョンの検討を進めます。

ゼロカーボンシティの実現

地球温暖化対策実行計画の区域施策編でお示しする温室効果ガス排出量削減の目標を達成するため、太陽光発電システムなど住宅用再生可能エネルギー機器等の設置に対する補助金を拡充し、再生可能エネルギーの利用促進の強化を図ります。



清瀬の大切な財産である緑の保全では、市民から遺贈を受けた約1㍉の公園用地を(仮称)「花のある公園」として整備します。

選ばれるまちに

4月の設立に向け、市と清瀬商工会が連携して準備を進めている清瀬市観光協会では、新たな観光資源の掘り起こしや既存の資源の磨き上げなど、観光ブランド力の向上を図ります。

また、周辺地域や関係団体と連携し、ひまわりフェスティバルをはじめとした各種の観光施策を推進し、交流人口の増加を図ることで清瀬市の産業振興や地域の活性化につなげます。

農業の振興では、新たに「未来に残す東京の農地プロジェクト」として、農業者が行う地域や環境に配慮した基盤整備に対して補助を行います。

また、地域農業者支援事業では、農業のDX化や農機具の電動化に係る経費の補助を引き続き行うほか、学校給食での地産地消を進めるため、学校給食に納品している農業者への補助率等の拡充を図ります。

商工業の振興では、新たに店舗認証制度を開始します。「ユニバーサルデザイン店舗」、「親子で利用しやすい店舗」、「地産地消店舗」を市が認証し、認証プレートを授与して店舗の質的向上を目指すとともに、幅広く市民の皆さまに周知します。

シティプロモーションについては、6月11日に清瀬駅が開業100周年を迎えることから、西武鉄道とも連携し、市全体でお祝いしたいと考えています。



6月11日の当日には清瀬駅で式典を行うほか、6月9日には清瀬けやきホールで記念イベントを開催予定です。また、郷土博物館では、特別展として「清瀬駅100年の物語」を、6月9日から9月1日まで開催します。

さらに、市外向けのシティプロモーションの強化を図るため、地域の観光情報や歴史・文化、イベント・祭りなどの情報をまとめた「清瀬ブランドブック」を制作し、清瀬市の魅力や価値を高め、多くの方々を知っていただき「選ばれるまち清瀬」に向けたシティプロモーションに積極的に取り組みます。